

## ボーリング柱状図

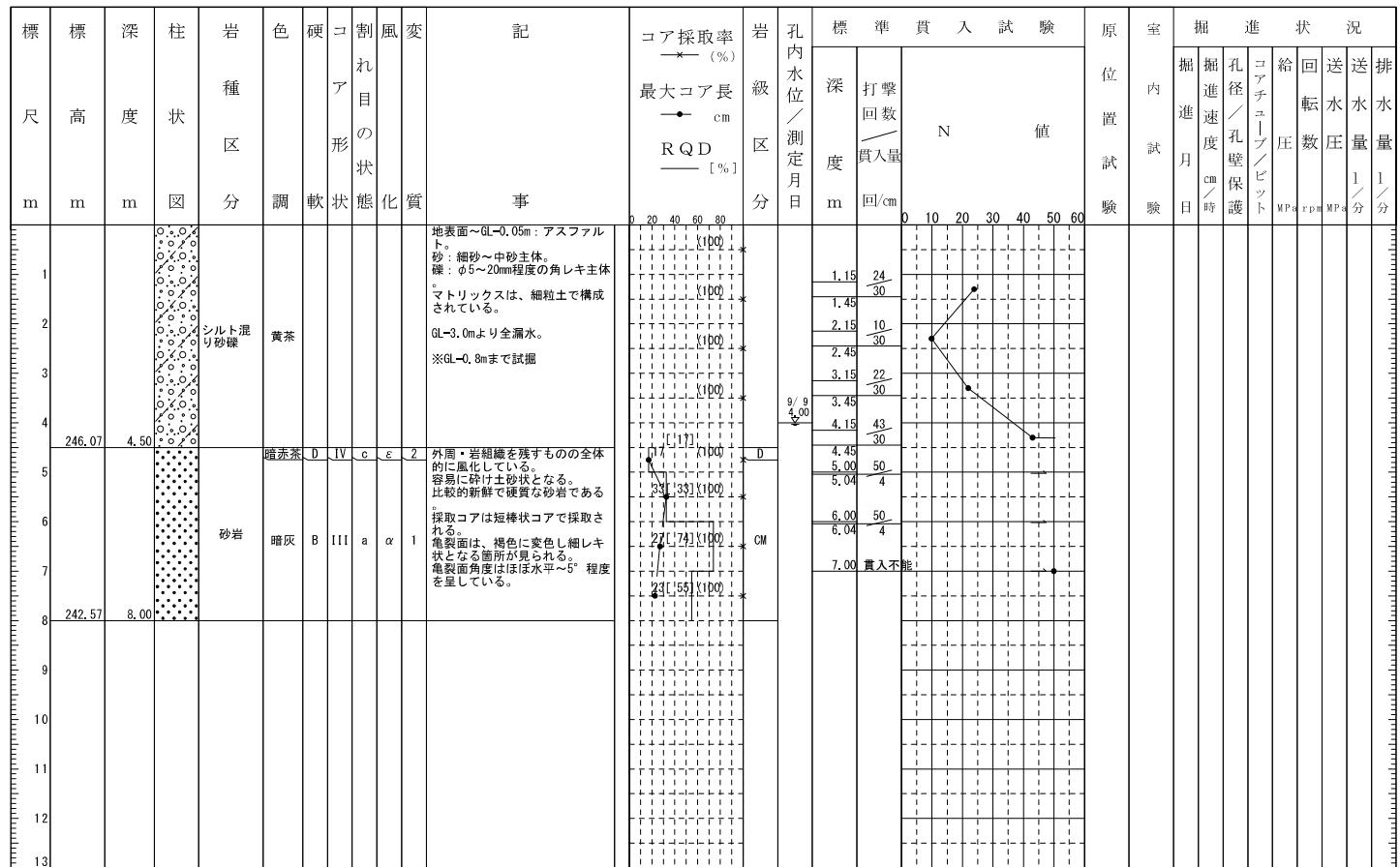
## 調査名 主要地方道庄原作木線交通安全施設整備事業に伴う測量・地質調査・設計業務委託(交付金)

ボーリングNo.	5	2	3	2	2	6	6	6	6	6	6
----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

事業・工事名

シート No.

ボーリング名	Bor No.3	調査位置	広島県三次市君田町石原					北緯	34° 53' 02.8000"
発注機関	広島県北部建設事務所				調査期間	平成28年 9月 7日～平成28年 9月 9日			東経 132° 49' 52.3000"
調査業者名				主任技師			現場代理人	コ鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	GH 250.57m	角度	180° 上 下 0°	方位 90° 0° 向 西 東 180° 南 北 0°	地盤勾配 0° 270° 90° 180° 90° 0°	使用機種 試錐機 エンジン	(株)ワイビーエム製 YBM-05型 ヤンマーNFD-7	ハンマ一落下用具 ボンブ	半自動型 (株)ワイヤーイエム製 GP-5
総掘進長	8.00m								



**< 凡例 >      コア硬軟区分判定表**

記号	硬 軟 区 分
A	極硬、ハンマーで容易に割れない。
B	硬、ハンマーで金属音。
C	中硬、ハンマーで容易に割れる。
D	軟、ハンマーでボロボロに砕ける。
E	極軟、マサ状、粘土状。

## 風化区分表

記号	風化の程度
$\alpha$	非常に新鮮である。
$\beta$	新鮮である。表面層、劈開に沿ってわずかに変色があり割れ易い。
$\gamma$	弱風化している。表面層、劈開に沿って風化している。
$\delta$	風化している。岩芯まで風化している。ハンマーで簡単に崩せる。
$\epsilon$	強風化している。褐色化し、指先で簡単に崩すことができる。

### 麥實區分表

記号	変質分区	変質状況	
		変質度	特徴
1	非変質	肉眼的に変質輪郭が認められないもの。	
2	弱変質	原岩組織を完全に探し、変質程度が低いもの。 または、非変質部の割合が肉眼で50%以上もの。	
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判断できるが原岩組織を明らかに探し、原岩判定が容易なもの。 または、非変質部を残すものおよび網状変質部。	
4	強変質	結晶質物、岩石質変質部で完全置換され、原岩組織を全く見どんと残さないもの。	

### コア割れ目状態判定表

記号	割れ目状態区分
a	密着している。あるいは分離しているが割れ目沿いの風化・変質は認められない。
b	割れ目沿いの風化・変質は認められるが、岩片はほとんど風化・変質していない。
c	割れ目沿いの風化・変質は認められ軟質となっている。
d	割れ目として認識できない角礫状・砂状・粘土状コア。

備 者

## 分判定表

記号	模 式 図	コア形状区分判定表	
		コア形	状
1		長さが50cm以上の棒状コア。	
2		長さが50~15cmの棒状コア。	
3		長さが15~5cmの棒状~片状コア。	
4		長さが5cm以下の棒状~片状コアでかつコアの外周の一部が認められるもの。	
5		主として角礫状のもの。	
6		主として砂状のもの。	
7		主として粘土状のもの。	
8		コアの採取が出来ないものの。スライムも含む。(記事欄に理由を書く)	